

よぬだ ところどころ



第二十八号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

山本の「若菜洞」と伝承

ワカナボラ

木曾義仲にちなむ若菜(市指定文化財)の場合は若名として(いる)御前の冥福を祈る宝篋印塔がありそのまま地名となる。諏訪神社への道を東に入り、山本のため池を通り越し、山中へ170メートルほどの山の斜面にこの伝若菜御前宝篋印塔がある。

上写真 伝若名御前宝篋印塔

この洞には立派な門を構える民家が多く見られ、周辺の斜面は若干耕作を放棄した部分もみられるが周辺の山地斜面と比較してもよく耕作され手入れされているのが分かる。可児市の洞では、まさしく丘陵地が河川により解析され奥行き短い沖積面を持つものが多かったが、この場合は少し様子が違うようにみられる。すなわちため池の上に住居がある。人間が居住するためには水が必要なので普通は谷津が大きい場合は谷に添った山麓斜面や谷頭部分に住居がみられる。「洞」については別項で吟味するのでここでは触れない。



若菜御前 木曾義仲の母という説と木曾義仲の妾であるという説がある。現在久々利に住む、木曾氏の末裔という人によれば、若菜は木曾義仲が上洛したのを追って上洛中病氣となり、この地に没したとされる。いずれにせよ、当時木曾氏にとってこのルートが京へ上がる重要な道路であるとともに、この道は女性等が通行できる安全性を備えていたと思われる。

通行の安全は道路の狭隘とか路面の状態とかは考えにくく、当然追いはぎ・野盗・反義仲勢力(平氏を含む)から身を守れるということであるから、木曾氏の先遣隊ないしは協力者が諏訪神社を中心に地元根付いていたと考えるのが普通である。川辺肥田氏の成立はこのような背景で考えることもできるのではないかとと思われる。